

# 事業内容



# I 診療部

## 1 各診療科

### (1) 整形外科

脳性麻痺、二分脊椎など障害児の肢体不自由や変形などの改善を目的に、リハビリテーション、装具療法等を行っているほか、必要に応じて、入所後に手術治療なども行っている。

また、四肢の痙性の強い患者に対してはボツリヌス注射治療も施行しているほか、発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）、内反足、O脚、側弯症などの小児整形外科疾患に対するギプス、装具、牽引、手術などの治療も専門としている。

さらに、骨系統疾患児や下肢長差の認められる患者には脚延長術も行っている。

### (2) 小児科

一般病院の小児科とは異なり、小児期発症の神経疾患を専門としている。

初診年齢は0歳～18歳だが、状況により18歳を過ぎたケースにも対応している。

入所施設機能に加え、母子訓練入院、検査や治療目的の入院も行っており、特に、難治性てんかん患者への内科的治療に取り組んでいる。

また、人工呼吸器管理を含めた重度障害への対応を充実させ、在宅支援を積極的に行っている。

### (3) 小児科メンタルヘルス

子どものこころ専門医が、子どもの行動発達の問題と心身症の専門外来を行っている。

初診年齢は中学生までとしている。

継続する場合はおおむね高校1年生までとし、その後医療が必要な場合は大人の科へ紹介する方針としている。

### (4) 精神科こころのケア

精神科専門医が、子どもの心の問題について「こころのケア外来」という名称で診療および相談を行っている。

初診は原則として中学生までで、対象となるのは①知的障害を含む発達障害 ②発達障害を背景にした精神症状 ③発達障害以外の子どもの精神障害 の3分野である。なお、①②については入所者の往診も行っている。

### (5) 歯科

むし歯を生じさせないためには、良好な食習慣とハミガキやうがいを始めとした口腔衛生の維持が大切であり、様々な病気を持った子どもの口と歯の健康を、歯科医師と歯科衛生士が保護者の方と一緒に取り組み、口腔育成の視点からの診療を行っている。

治療が困難な子どもの場合には、静脈内鎮静法や全身麻酔を併用した歯科治療を行うが、通常の歯科治療が可能と思われる場合は、他の医療機関の受診を勧めている。

### (6) リハビリテーション科

専門スタッフによる理学療法、作業療法、言語聴覚療法を行っている。各療法とも発達の遅れや障害のある入院及び外来患者に対して適切な評価を行い、それらに基づいたカンファレンスにより決定された治療方針にあわせ、訓練やその他のサービスを提供している。

(7) 耳鼻咽喉科

主に小児を対象として耳・鼻・のどの病気を診察・治療している。また、自宅での耳そうじが困難な小児に対しての耳垢除去も行っている。特に難聴に対する検査では脳波を検出する方法により0歳児から診断が可能となっている。

(8) 眼科

屈折異常(近視、遠視、乱視)、弱視、斜視、緑内障、白内障、先天異常、眼科手術後の経過観察、その他小児眼科全般の診療および治療に関する相談のほか、眼鏡処方や弱視治療も行っている。検査や診察が困難な子どもにも時間をかけて対応できるよう予約制としている。

(9) 常勤診療科医師(平成31年3月)

診療科	氏名	卒業年	専門医など
整形外科	遠藤 博之	昭和36年	リハビリテーション認定臨床医
整形外科	石原 芳人	昭和51年	整形外科専門医、リハビリテーション認定臨床医
整形外科	坂本 仁	昭和62年	
整形外科	三澤 晶子	平成7年	整形外科専門医、リハビリテーション認定臨床医
整形外科	井上 純一	平成26年	
小児科	澤石 由記夫	昭和60年	小児科専門医、小児神経専門医、 てんかん専門医指導医、臨床遺伝専門医
小児科	渡部 泰弘	平成5年	小児科専門医
小児科	坂本 知子	平成25年	
小児科	豊野 美幸	平成5年	小児科専門医、小児神経専門医
精神科	室岡 守	平成5年	日本精神神経学会精神科専門医、精神保健指定医
歯科	猪狩 俊郎	昭和53年	歯科麻酔専門医、障害者歯科認定医

## (10) 外来診察担当表 (平成31年3月)

診察室番号	診療科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
2	午前	小児科	澤石	澤石	豊野	澤石	澤石
	午後	小児科		澤石		澤石	
3	午前	小児科	平山	平山		平山	豊野
	午後	小児科	豊野	豊野	稲見		豊野
4	午前	整形外科	石原		三澤	三澤	三澤*1
	午後	整形外科		石原	側湾外来 三澤	三澤	
5	午前	整形外科	坂本・三澤	坂本	坂本	坂本	坂本*2
	午後	整形外科				坂本	
	午前	泌尿器科					小原*3
7	午前	眼科					秋田大学担当 医師*4
	午後	耳鼻咽喉科					秋田大学 担当医師
	午後	小児外科				森井*5 渡部*5	
	午後	小児科 (腎臓)			土田*6		
8	午前	歯科	猪狩	猪狩*7	猪狩	猪狩	猪狩
	午後	歯科	猪狩	猪狩*7	猪狩	猪狩	猪狩
9	午前	小児科 メンタルヘルス	渡部	渡部*8		渡部	渡部
	午後	小児科 メンタルヘルス	渡部		渡部	渡部	渡部
	午前	小児科 (心臓)		豊野*9			
10	午前	精神科 こころのケア	室岡	室岡	室岡		室岡
	午後	精神科 こころのケア	室岡	室岡		室岡	室岡

(注) 表中の空欄は休診日、\*印の外来診療日は以下のとおり。

\*1 : 第1・2・5 金曜日

\*2 : 第3・4 金曜日

\*3 : 第2 金曜日

\*4 : 第1・3 金曜日

\*5 : 第1・3 木曜日 (渡部)

\*6 : (奇数月) 第2 水曜日

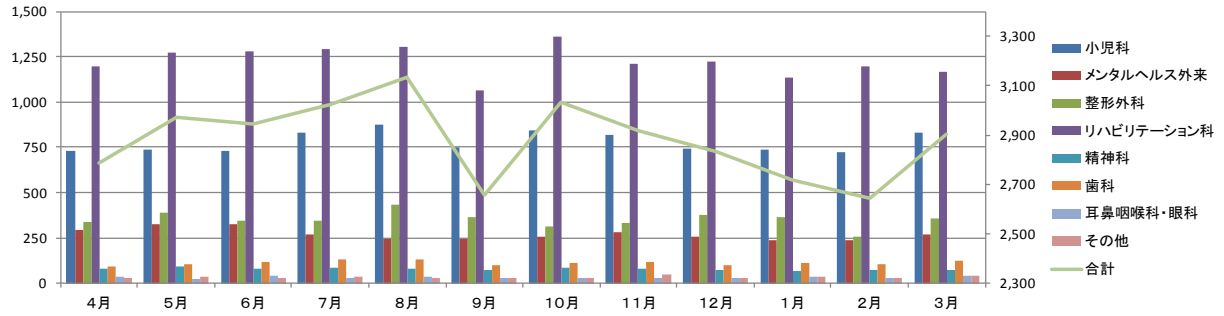
\*7 : 第1・3 水曜日

\*8 : 第1・3 火曜日

\*9 : 第4 火曜日

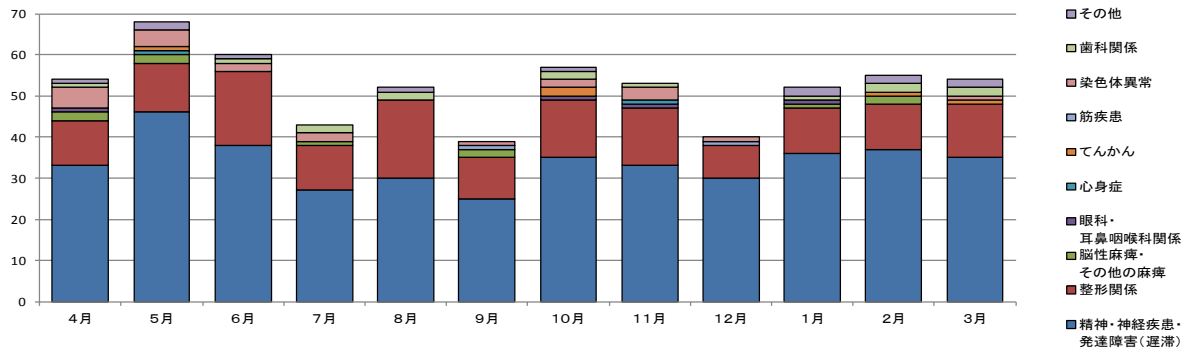
(11) 平成30年度の実績

① 診療別外来受診者数



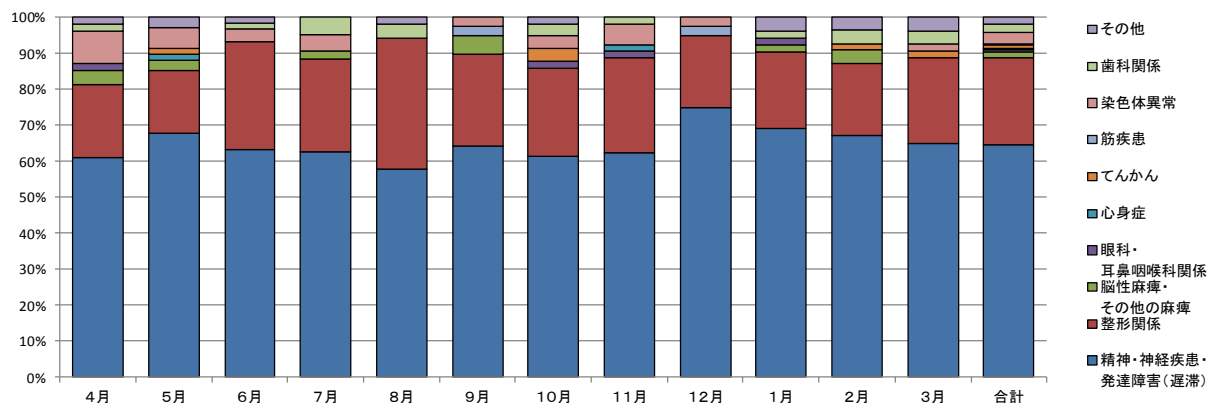
	(人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小児科	729	736	729	832	874	751	843	820	744	738	721	832	9,349
メンタルヘルス外来	292	323	328	271	245	244	255	280	254	238	236	266	3,232
整形外科	341	392	347	347	436	363	314	330	377	363	256	360	4,226
リハビリテーション科	1,194	1,271	1,282	1,292	1,305	1,062	1,364	1,210	1,220	1,131	1,196	1,165	14,692
精神科	77	90	77	85	78	73	84	81	75	68	74	76	938
歯科	90	102	115	130	131	100	113	119	99	109	106	124	1,338
耳鼻咽喉科・眼科	36	22	39	31	36	31	32	29	30	33	27	40	386
その他	26	38	29	34	31	31	27	45	32	37	29	39	398
合計	2,785	2,974	2,946	3,022	3,136	2,655	3,032	2,914	2,831	2,717	2,645	2,902	34,559
前月比 (%)		106.8	99.1	102.6	103.8	84.7	114.2	96.1	97.2	96.0	97.4	109.7	

② 外来新患内訳数



	(人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神・神経疾患・発達障害(遅滞)	33	46	38	27	30	25	35	33	30	36	37	35	405
整形関係	11	12	18	11	19	10	14	14	8	11	11	13	152
脳性麻痺・その他の麻痺	2	2		1		2				1	2		10
眼科・耳鼻咽喉科関係	1						1	1		1			4
心身症		1						1					2
てんかん		1						2			1	1	5
筋疾患						1			1				2
染色体異常	5	4	2	2		1	2	3	1			1	21
歯科関係	1		1	2	2		2	1		1	2	2	14
その他	1	2	1		1		1			2	2	2	12
合計	54	68	60	43	52	39	57	53	40	52	55	54	627
前月比 (%)		125.9	88.2	71.7	120.9	75.0	146.2	93.0	75.5	130.0	105.8	98.2	

③ 外来新患内訳比率



	(%)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
精神・神経疾患・発達障害(遅滞)	61.1	67.6	63.3	62.8	57.7	64.1	61.4	62.3	75.0	69.2	67.3	64.8	64.6
整形関係	20.4	17.6	30.0	25.6	36.5	25.6	24.6	26.4	20.0	21.2	20.0	24.1	24.2
脳性麻痺・その他の麻痺	3.7	2.9	0.0	2.3	0.0	5.1	0.0	0.0	0.0	1.9	3.6	0.0	1.6
眼科・耳鼻咽喉科関係	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.6
心身症	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
てんかん	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	1.8	1.9	0.8
筋疾患	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.3
染色体異常	9.3	5.9	3.3	4.7	0.0	2.6	3.5	5.7	2.5	0.0	0.0	1.9	3.3
歯科関係	1.9	0.0	1.7	4.7	3.8	0.0	3.5	1.9	0.0	1.9	3.6	3.7	2.2
その他	1.9	2.9	1.7	0.0	1.9	0.0	1.8	0.0	0.0	3.8	3.6	3.7	1.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

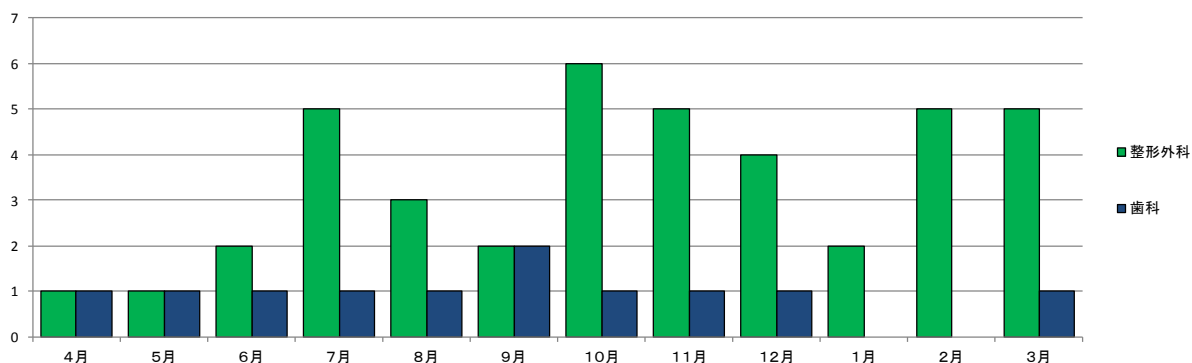
④ ボトックス施注数

	(人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施注人数	34	28	17	18	30	32	16	18	34	26	11	16	280

⑤ 補装具処方数

	(枚)
股装具	11
膝装具	11
短下肢装具	124
靴型装具	2
リハビリシューズ	3
足底装具	17
頸椎装具	
腰椎装具	
側弯矯正装具	27
上肢装具	7
車いす	71
歩行器	14
座位保持装置	39
その他	28
計	354

⑥ 手術件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
整形外科	1	1	2	5	3	2	6	5	4	2	5	5	41
歯科	1	1	1	1	1	2	1	1	1			1	11

⑦ 整形外科疾患別手術件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳性麻痺	1		2	3	3		2	3	2	2	2	2	22
二分脊椎													0
筋疾患													0
神経疾患													0
先股脱						1	2	1			1		5
筋性斜頸													0
内反足							2	1	1				4
その他		1		2		1			1		2	3	10
合計	1	1	2	5	3	2	6	5	4	2	5	5	41

⑧ 整形外科手術別件数

手術名	件数
股関節周囲筋解離術	25
膝関節周囲筋解離術	25
足関節周囲筋解離術	29
骨切り術（骨盤、大腿、下腿）	11
足部骨・関節手術	5
斜頸手術	
内反足手術	4
その他（脚延長、抜釘など）	43
合計	142

⑨ 歯科治療件数

	件数
全身麻酔下	11
静脈内鎮静法下	33
モニター監視下	32
埋伏歯抜歯	3
合計	79

※延べ件数。



## 2 リハビリテーション部門

平成 30 年度は、理学療法士 9 名、作業療法士 8 名、言語聴覚士 4 名で業務に当たっている。

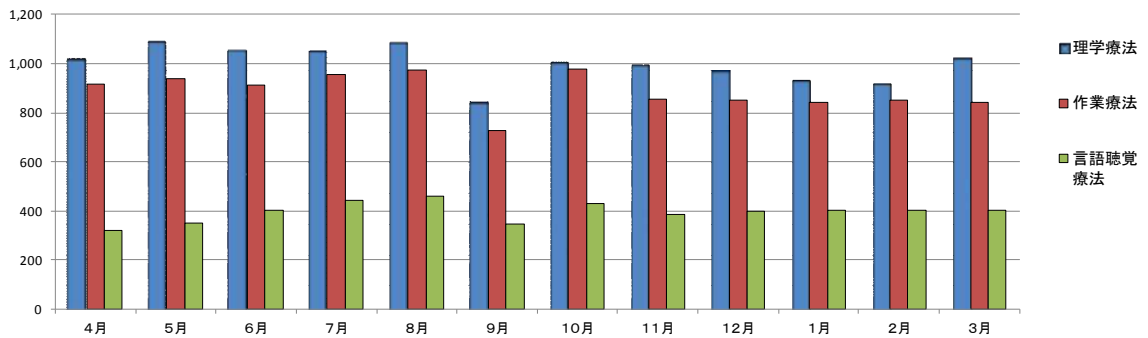
理学療法室は面積が 256 ㎡あり、重心動揺・足圧分布測定器、筋力測定器、三次元動作解析装置、床反力計などの客観的評価機器、電動昇降式マットプラットフォームや懸垂歩行訓練が可能なトレッドミルなどの訓練機器、また、ブランコや滑り台、その他遊具を多数揃えている。

作業療法室は 133 ㎡、さらに、感覚統合療法室 50 ㎡、日常生活動作訓練室 22 ㎡があり、種々の評価・訓練が可能な機器を揃えている。

言語聴覚療法室は 24 ㎡が 1 室、またどの職種でも使える個室 18 ㎡を 7 室用意しており、各種言語学習教材、認知機能向上用教材、コミュニケーション補助機器などを揃えている。

### (1) 平成 30 年度の実績

#### ① 各療法の月別件数

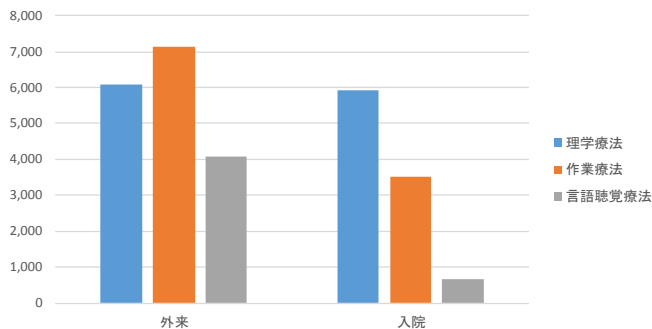


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	1,021	1,090	1,057	1,052	1,086	846	1,010	999	972	933	920	1,026	12,012
作業療法	917	937	912	955	974	726	979	853	852	841	849	842	10,637
言語聴覚療法	319	349	404	442	460	347	431	386	397	405	403	402	4,745
合計	2,257	2,376	2,373	2,449	2,520	1,919	2,420	2,238	2,221	2,179	2,172	2,270	27,394

(人)

※実施人数は延人数である。

#### ② 平成 30 年度 各療法の入院・外来件数

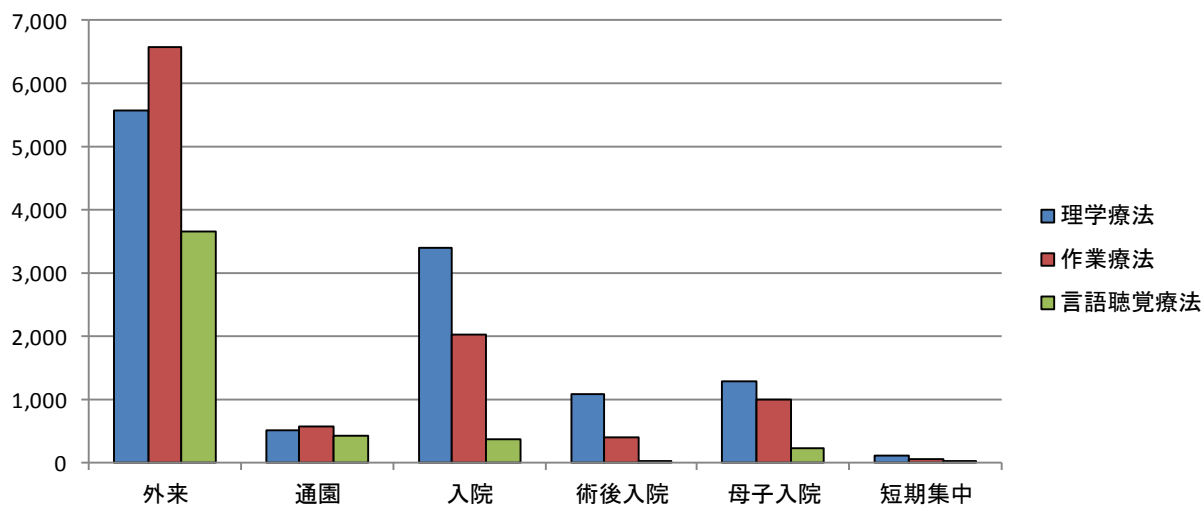


	外来	入院	合計
理学療法	6,098	5,914	12,012
作業療法	7,131	3,506	10,637
言語聴覚療法	4,090	655	4,745
合計	17,319	10,075	27,394

(件)

※合計は実施した件数であり、医師が指示した件数である I 診療部 (11) の①診療別外来受診者数とは一致しない。

③利用形態別件数



(件)

	外来	通園	入院	術後入院	母子入院	短期集中	合計
理学療法	5,587	511	3,417	1,096	1,290	111	12,012
作業療法	6,567	564	2,031	413	995	67	10,637
言語聴覚療法	3,654	436	368	39	236	12	4,745
合計	15,808	1,511	5,816	1,548	2,521	190	27,394

- ※ 外 来：一般外来  
 通 園：外来患者で、乳幼児通園を利用している者  
 入 院：一般入院、契約入所、措置入所  
 術後入院：整形外科で手術を受け入院している者  
 母子入院：母子入院している者  
 短期集中：訓練を集中して受けるため短期間入院している者

### 3 薬剤部門

正確な調剤・監査を患者のニーズに応じ行っている。調剤に資する医薬品の他、注射薬、また、外来、病棟、さらには手術室において用いられる医薬品の適正な管理業務を行っている。また、入院時における、お薬手帳を基にした持参薬の情報提供、「お薬のしおり」や「おくすり手帳」貼付シールによる服薬指導、さらには、解りやすい薬袋印字（患者名、薬名、用、貯法等）等により、医薬品の安全で正確な服用・使用のための業務を行っている。

また、医薬品の安全性・有効性の情報を収集し、より安全で効果的に使用されるように医師と医療スタッフに情報提供を行っている。

#### (1) 調剤業務の適正化

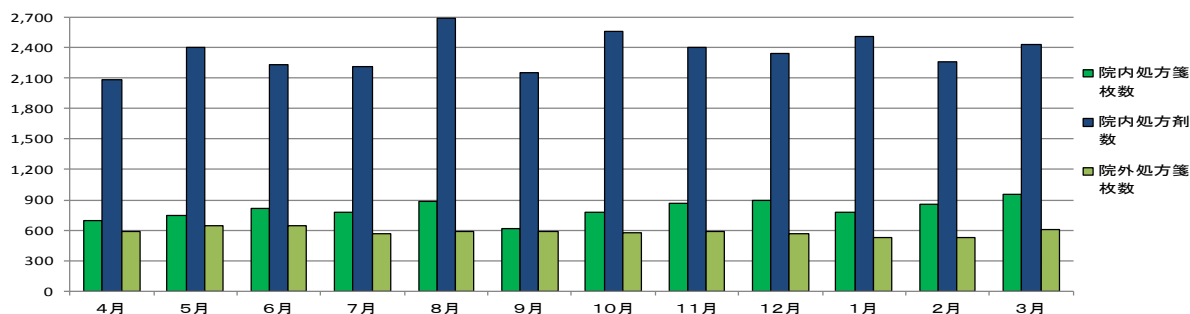
- ①後発医薬品への変更を医師と協議する。
- ②同効果・同成分医薬品を整理統合する。
- ③アドヒアランス向上のための剤形変更等、調剤における工夫に努める。
- ④利用者の求めに応じて、薬袋の印字の有無等工夫に努める。
- ⑤災害等を念頭に置き、在庫医薬品の適正化に努める。

#### (2) 情報の収集・提供

- ①DSU(医薬品安全対策情報)を編集し、活用する。
- ②学会、研修会に参加し、資質の向上に努める。
- ③電子カルテシステムから得た利用者の医薬品情報を集計等により活用し、利便性の向上に努める。

#### (3) 平成30年度の実績

##### ・調剤件数



(枚, R.P.)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
院内処方箋枚数	697	749	812	776	884	618	779	861	899	773	858	955	9,661
院内処方剤数	2,085	2,403	2,231	2,206	2,688	2,146	2,556	2,396	2,341	2,504	2,260	2,425	28,241
院外処方箋枚数	588	645	643	566	591	584	578	582	566	530	528	610	7,011
院外処方発行率 (%)	89.1%	90.7%	86.9%	85.6%	85.3%	89.4%	87.7%	87.9%	89.3%	87.2%	88.0%	88.3%	87.9%

##### 内訳

(枚, R.P.)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来院内処方箋枚数	72	66	97	95	102	69	81	80	68	78	72	81	961
外来院内注射処方箋枚数	51	36	34	27	46	44	32	28	46	38	21	29	432
入院処方箋枚数	390	437	427	391	447	340	435	469	431	398	386	456	5,007
入院注射処方箋枚数	184	210	254	263	289	165	231	284	354	259	379	389	3,261
外来院内処方箋剤数	175	116	181	212	201	160	174	152	125	129	116	129	1,870
外来院内注射処方箋剤数	67	39	34	28	48	45	32	30	49	46	24	31	473
入院処方箋剤数	1,635	2,019	1,719	1,672	2,132	1,744	2,092	1,884	1,761	1,999	1,706	1,846	22,209
入院注射処方箋剤数	208	229	297	294	307	197	258	330	406	330	414	419	3,689

## 4 臨床検査部門

臨床検査は検体検査と生理機能検査に大別される。当センターでは、処理可能な検査は当センターで行い（自家処理）、その他の検査は外部委託している。

### (1) 検体検査

- ・尿一般検査：尿の検査・糞便の検査等を行う。
- ・血液一般検査：自動分析装置を使い、赤血球数、白血球数、血小板数等を測定する。
- ・生化学検査：自動分析装置を使い肝機能検査、腎機能検査等を測定する。
- ・血清検査：手術等で輸血が必要な場合の血液型（ABO型、Rh型）を調べ、交差適合試験を行う。
- ・薬物血中濃度検査：自動分析装置を使い抗てんかん薬等の血中濃度を測定する。
- ・血液ガス検査：自動分析装置を使い血液中の酸素濃度、二酸化炭素濃度、PH等を測定する。
- ・凝固検査：自動分析装置を使い、PT、APTT、Dダイマー等の凝固因子を測定する。
- ・簡易キット検査：簡易キットを使い（インフルエンザ A&B、A群β-溶血連鎖球菌、RSウイルス、hMPウイルス、咽頭アデノウイルス、便アデノウイルス、便ロタウイルス等、便ノロウイルス）を検査する。
- ・外部委託検査：細菌検査、病理検査、自家処理不可能な検査等を委託する。

### (2) 平成30年度の実績

- ・検体検査件数

(件)

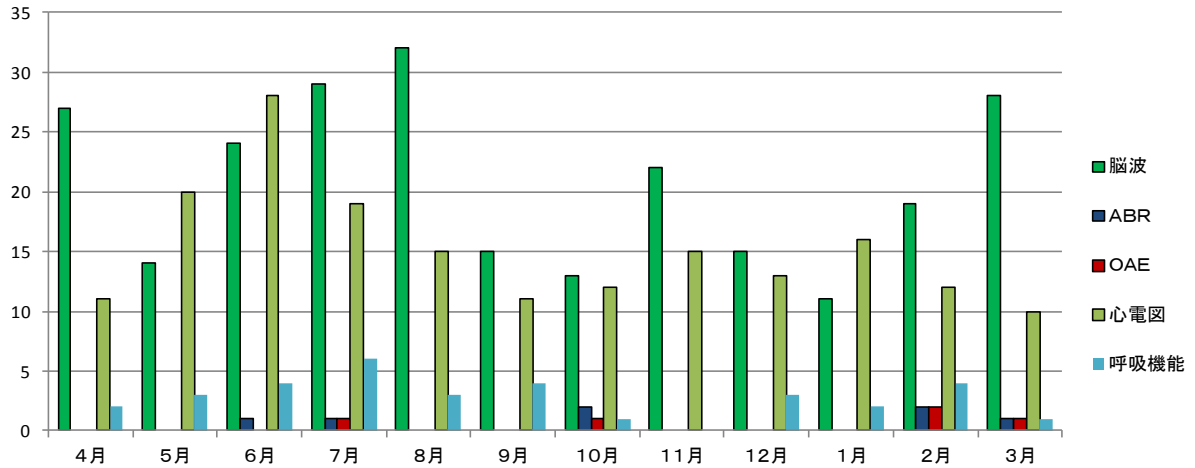
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
院内検査	尿一般検査	117	149	99	120	97	99	113	137	97	107	138	162	1,435
	血液一般検査	239	226	195	227	274	207	220	261	229	212	260	262	2,812
	生化学検査	1,841	1,626	1,472	1,728	1,978	1,534	1,656	2,023	1,649	1,649	1,911	1,817	20,884
	凝固検査	10	22	18	37	14	20	20	19	17	10	30	15	232
	血清検査	6	10	10	14	8	14	10	10	10	8	14	8	122
	薬物血中濃度検査	20	20	27	27	28	21	18	29	16	20	17	15	258
	簡易キット検査	7	3		1			3	3	6	8	12	7	50
	その他の検査	10	9	7	6	12	13	13	9	6	9	15	6	115
	健康診断（尿検査）	60	4					13	3					80
外注検査	118	126	108	179	149	115	100	125	113	132	125	98	1,488	
細菌検査	36	44	43	56	58	89	66	82	37	41	94	69	715	

(3) 生理機能検査

- ・心電図検査・脳波検査・呼吸機能検査・ABR検査・OAE検査
- ・筋電図検査（医師実施）・超音波検査（医師実施）

(4) 平成30年度の実績

- ・生理機能検査件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳波	27	14	24	29	32	15	13	22	15	11	19	28	249
ABR			1	1			2				2	1	7
OAE				1			1				2	1	5
心電図	11	20	28	19	15	11	12	15	13	16	12	10	182
呼吸機能	2	3	4	6	3	4	1	3	2	4	1	33	

## 5 放射線部門

放射線部門で行っている画像検査は、CT、MRI(オープンタイプ)、X線撮影、透視撮影、歯科撮影、術中透視撮影などである。依頼科は、小児科、精神科、整形外科、歯科、耳鼻咽喉科、眼科と多岐にわたり、検査部位や検査項目も広範囲になっている。対象疾患でもっとも多いものは小児神経疾患及び小児整形外科疾患である。

なお、導入している放射線部門システムは電子カルテシステムと連携し、画像は各診療科や病棟の高精細端末や電子カルテ端末に配信されて、精度の高い診断及びインフォームドコンセントの促進に活用されている。

### (1) 平成 30 年度の事業計画

- ・質の高い放射線技術の提供（疾患、障害、発達に応じた画像検査を提供する。利用者の質問、相談に対し、そのニーズを的確に汲み取り、EBM に基づいたインフォームドコンセントを実施する。）
- ・CT、MRI 等高度医療機器の効率的活用（他の医療機関と良好な連携を目指し、検査精度の向上を図る。標準化された各種の規格・運用指針に基づき、他の医療機関との連携強化に努める。）
- ・医療安全対策の推進（事故防止安全対策マニュアルをはじめ、感染防止対策マニュアルや医療機器安全管理マニュアルに基づいて業務を遂行する。）
- ・職員の資質の向上（最先端医療技術の成熟度に応じた医療水準を常に念頭に置いて技術の向上に努める。各種学会のガイドラインの導入を図り、確立された診療放射線技術を検証する。）

### (2) 平成 30 年度の実績

- ・画像撮影件数実績

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
MRI	7	11	12	11	14	6	10	10	4	9	2	10	106
CT	12	8	8	7	4	5	5	10	7	9	4	7	86
X線撮影	86	99	68	98	121	127	68	53	68	87	52	77	1,004
回診撮影	36	31	44	30	35	29	34	36	27	32	37	29	400
X線透視・撮影	2	1	5	2	6		5	5	6	5	2	6	45
術中透視・撮影	1	1	2	4	3	2	6	5	4	2	5	4	39
歯科撮影	2	1	1	4	2	1	4	1	2	8	4	2	32
歯科術中撮影	1	1	1	1	1	2	1	1	1				10
画像提供	5	17	16	11	11	9	9	16	10	4	5	15	128
画像取込	11	19	19	12	18	12	16	14	9	11	15	21	177

## 6 臨床心理部門

### (1) 臨床心理査定

発達及び知能検査、人格検査、その他心理検査を用いて、個人の独自性や個別の特徴、問題点の所在を明らかにする。また、得られた所見に基づいて、育児や発達、就学や学習等に関する相談、助言を行っている。

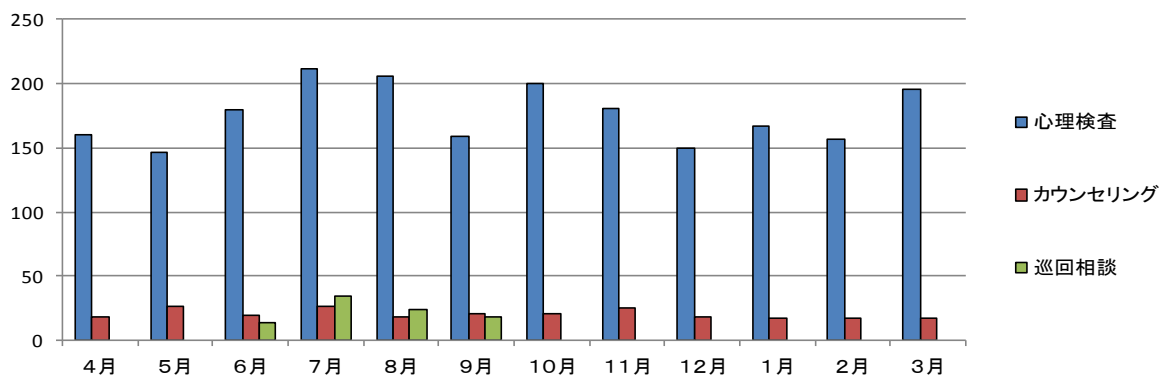
### (2) 臨床心理面接（カウンセリング）

利用者の訴えに対して個人の価値観への尊重に基づいて関わり、これを取り扱う。また、利用者それぞれの特徴に応じて、遊戯療法や来談者中心療法、認知行動療法などの種々の心理療法をはじめとした臨床心理学的技法を用いて心理援助にあたっている。

### (3) 臨床心理学的地域援助

個人のプライバシーを十分に守りながらも、同時にコミュニティ（家庭、保育園、幼稚園、学校など）全体を考慮した情報整理や環境調整を行っている。

### (4) 平成 30 年度の実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心理検査	160	146	179	211	205	159	200	181	150	167	156	195	2,109
カウンセリング	19	27	20	26	19	21	21	25	18	17	17	17	247
巡回相談			14	35	24	18							91

検査内訳		(件)											
心理検査 新規	31	35	25	26	18	32	27	20	19	22	25	18	298
心理検査 再来	129	111	154	185	187	127	173	161	131	145	131	177	1,811
カウンセリング 新規		1			2							1	4
カウンセリング 再来	19	26	20	26	17	21	21	25	18	17	17	16	243
巡回相談 新規			11	21	9	12							53
巡回相談 再来			3	14	15	6							38

判定書発行先		(枚)											
児童相談所	16	12	18	21	16	24	26	19	17	15	17	14	215
その他									1				1

※H27年度より知能検査と人格検査をあわせて「心理検査」として報告する。H26年度までは知能検査に含まれていた「巡回相談」での検査件数をH27年度より「心理検査」と「巡回相談」にわけて報告する。  
なお「巡回相談」とは療育支援事業のなかの在宅支援専門療育指導をさす。

## 7 栄養指導管理部門

医療棟（母子入院含む）、医療型障害児入所施設（ひばり病棟・杉の子病棟）、医療型児童発達支援センター、福祉型児童発達支援センター、生活介護事業所、短期入所の利用者に、給食を提供している。

対象年齢は0～30歳代まで幅広く、食事形態も多岐にわたっているため、個々の発達状況に合わせた食事区分や食事形態を設け対応している。また、食物アレルギー除去食については、医師の診断のもと除去する食品の種類・程度を把握し、看護師・保育士・栄養士の連携を密にして個別対応をしている。

### （1）献立作成・実施について

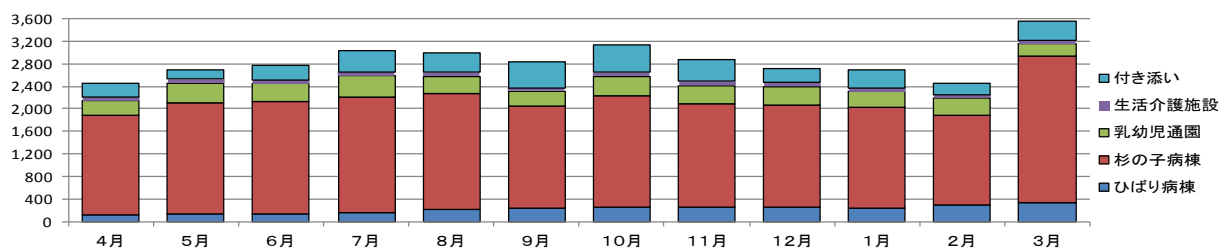
- ①食品の持ち味を大切に味付けにする。
- ②季節感を盛り込む。
- ③各行事にあった献立を考える。
- ④盛り付け・配色などで変化をつけ「目で楽しむ食事」の提供。

### （2）栄養指導について

- ①肥満
- ②ケトン食
- ③離乳食
- ④幼児期の食生活（食教育）  
保護者への個別指導や勉強会の実施、給食だよりの発行。

### （3）平成30年度の実績

#### ・棟別給食数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ひばり病棟	115	135	140	154	223	228	259	259	251	243	287	335	2,629
杉の子病棟	1,766	1,978	1,986	2,046	2,040	1,816	1,966	1,835	1,818	1,781	1,605	2,605	23,242
乳幼児通園	267	343	323	383	309	271	349	321	323	282	300	213	3,684
生活介護施設	62	66	68	77	80	59	76	73	69	66	64	67	827
付き添い	244	175	255	380	343	452	479	376	252	329	186	334	3,805
合計	2,454	2,697	2,772	3,040	2,995	2,826	3,129	2,864	2,713	2,701	2,442	3,554	34,187

※杉の子病棟（母子入院含む）  
乳幼児通園・重心児者通園（昼食のみ提供）